

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」北山校		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	2024年 11月1 日		2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日本人、ブラジル人指導員がいる環境の中、個別、集団、利用ニーズに合った支援を選択し、受けることが出来る。	契約時には個々の特性を理解して、利用者、保護者の納得のいく支援を提供できるように十分に話をきいてプログラムを立てていく。	定期的に行うだけでなく、変化や成長に合わせてその都度計画を見直していくようにする。
2	同法人事業所が豊橋に3か所、近隣に数か所あるので協力して行事等を開催し、保護者同士が繋がっていきける場が多い。	定期的な行事に保護者が一緒に参加できたり、気軽に相談が出来る機会を多く作っていくように、ママカフェ、運動会、フェスタジュニナ等、各事業所が協力して計画を立てて実行している。	年度初めに保護者への周知を行うことで、より多くの参加者が集まることできる。また、知人や未利用者へ招待していくことで、事業所を知ってもらえる機会になる。
3	公園、動物園やその他公共施設が利用しやすい場所に事業所があるため、天候や季節に合わせて校外療育を計画したり、定期的に地域の子どもたちが集まる施設を利用して他児との関る機会を設けている。	事前に施設などの予約や連絡を行い、利用時にスムーズに入園や利用が出来るようにしている。また、月はじめには保護者へ予定表を配布して出欠をとったり、利用場所を周知していつている。	校外でも安全に活動できるように、事前に施設を知っておくこと、また施設への事前予約や連絡等行っていく。緊急連絡先を保護者へ周知する等して安心して校外活動へ参加できるようにしておく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	バリアフリー等、誰でも利用できる環境ではない	現在、利用されている方に必要な方がいない為、構造化されていない。	希望者が出てきた場合環境を整えて提供していけるようにする。
2	ブラジル人利用保護者と日本人従業員とのやりとりでの問題	言語でのやり取りで、聞き取れなかったり、間違っって聞こえてしまったりで誤解が生じてしまうこともある。	通訳がいる時にしっかりと話をする。また、大事なことは翻訳ツール等を使い誤解のないようにする。
3	平日は集団利用の受け入れのみとなっている	個別の要望が多い中、個別に特化した部屋の構造ではない為平日に個別の枠を設けることが難しい。	利用時に部屋の構造上の問題で平日の個別支援が出来ないところを理解して頂きながら、集団支援の中でも個を捉えて支援しているところを説明して、マンツーマンではないが個々への支援方法をつたえていく。また可能な方には土曜日利用(個別あり)を提案していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 子どもサポート教室「きらり」北山校

公表日 2025年 2月 15日

利用児童数 16人

回収数 14人

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	4	1	1	もっと広い部屋が良い	活動内容によって戸外の施設や公園などで十分なスペースで活動できるように工夫しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10	3	0	1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10	3	0	1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10	2	1	1		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	14					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	13	1				
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	1			日本語の宿題の支援をしてほしい	計画に記載がなくても、放課後デイでの1日の活動の流れの中で宿題、学習プリントの時間が設けてあります。指導員も個々に対応して学習のお手伝いをしています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	14					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	12		1	1	どんな活動をしているのかわからない	計画的な交流はありませんが、校外活動などでは、地域の子どもたちと関わって活動する機会もあります。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13			1		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	13			1		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	1	1	3	保護者の交流があればよい	コロナ時期で中断されていたママカフェ、運動会、夏祭り等再開したイベントも多くあります。家族で参加したり、見学したり、相談出来たりと多くの方の参加が出来るように周知していきます。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	14					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	1	1			
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	1		2			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12			2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	14					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	13			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	11		1	2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	13			1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	13			1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	1				
	29	事業所の支援に満足していますか。	14					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもサポート教室「きらり」北山校				公表日	2025年 2月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	✓				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	✓				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	✓			バリアフリーなどの利用環境については必要に応じて整えていく	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	✓				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	✓				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	✓				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	✓				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	✓				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	✓				
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	✓				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	✓				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	✓				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	✓		ブラジル人指導員に対しては翻訳ツールや通訳が出来るものを通して共通理解や共有に努めている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	✓				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	✓				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	✓				

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	✓			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	✓			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	✓			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		✓	全員集まっでの振り返りは出来ていない。必要があれば終了後にいる職員で気付いた点を話したり、共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	✓			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	✓			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	✓			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	✓				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	✓			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		✓	必要があれば随時行っていく	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	✓			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	✓			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	✓			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		✓		連携が取れていないが今後、積極的に連携を取って助言などをうけられるようにしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	✓		計画的に交流することはないが、公園や、地域施設利用時に一緒に遊んだり、イベントに参加したりして関りがある	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	✓			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	✓			
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	✓				
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	✓			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	✓			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	✓			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	✓		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	✓		定期的に、ママカフェ等保護者同士の交流の機会を設けている。また、運動会等では東三河のきらりが集まって保護者交流や子供同士、兄弟での活動ができるイベントを開催している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	✓		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	✓		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	✓		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	✓		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	✓		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	✓		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	✓		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	✓		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	✓		現在利用者の中にアレルギーの子はいませんが在籍の場合、対応していきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	✓		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	✓		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	✓		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	✓		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	✓			